

手賀沼が海だったころ

松ヶ崎城の歴史と自然の魅力をさらに広める活動へ



会長 森 伸之

4月22日(日)に手賀沼と松ヶ崎城を考える会の総会を行いました。その報告をします。

日時:2018年4月22日(日)
10時~11時
場所:京北ホール
内容:
第一号議案
【平成29年度(2017年度)事業報告】

2017年度は、例年通り4月に歴史講演会、9月には特別歴史講演会を行い、歴史講座も9回開催しました。松ヶ崎城祭りも11月に実施しましたし、会報も2回発行するなどの活動を行いました。

2010年度から継続している歴史講座は、2017年度は9回開催し、のべ221名参加、前年度が8回開催で246名参加、前々年度が263名であったのと比べると減少していますが、定着した活動になっていると思います。

2017年11月の松ヶ崎城祭りでは、演者は活躍しましたが、カシニワ・フェスタで見学会を行ったためか、祭りでの見学会参加者は少な目でした。そのため、例年より来場数は少なかったと思われます。

2017年度は環境団体として、カシニワ制度登録後のカシニワの活動は、柏市役所で行われる会議に参加するなどのほか、ガイドブックに掲載、またカシニワ・

フェスタに初めて参加し、見学会を実施しました。

松ヶ崎城跡の柏市による10年間の借り上げの残りの期間は、もう1年。

多くの地域の方に関心をもってもらい、継続して柏市が城跡の土地を借り上げて、市民の憩いの場として活用していくことを切に希望するものです。

●決算報告

前期繰越 281,516円、
収入の部 事業収入ほか
合計 237,736円

支出の部 各種経費など
242,610円
繰越 276,642円

第二号議案

【平成30年度(2018年度)事業計画】

以下の活動を行っていきます。

- ・会員拡大と地域密着型活動の一層の活性化
- ・歴史講座の継続実施 年8回程度
- ・会誌発行 「水辺の城」2号を近々発行予定(*)
- ・松ヶ崎城跡の自然探索 5月20日にカシニワ・フェスタで城跡見学会
- ・松ヶ崎城跡の保存
- ・松ヶ崎城祭り
- ・史跡見学会など

(*)「水辺の城」第2号は、4月29日に発刊しました

◎予算案

前期繰越 276,642円、事業収入158,000円ほか 収入合計 268,000円
支出 各種経費など 282,264円 繰越 262,378円

第三号議案 役員選出
会長以下の役員は前年度と同じ(幹事は会長任命)

議長に浅野千之氏を選出し、議事進行を行いました。第一、二、三号の各議案について、特に異論なく承認されました。

(主な議論)

・松ヶ崎城跡の倉庫の防犯対策について案が出されました。

(鍵を二重にする、パトロールするなど)

・カシニワ・フェスタの一環で5月20日に行う松ヶ崎城跡見学会の前に、仮の樹名板をいくつか設置予定

(紙に印刷したものをラミネート加工などする)

・但し本格的にはカシニワで補助金を申請し、そのお金などで木々に樹名板を取り付ける

以上



【補足】直近の予定

5月20日(日) 13時半~15時:カシニワ・フェスタにて松ヶ崎城跡見学会

5月27日(日) 10時~12時:歴史講座第一回「陸軍航空の黎明と航空教育」

アミューゼ柏 会議室Bにて

●講演会「縄張り図から見る中世城郭の実像と松ヶ崎城」を開催！



講師：田嶋貴久美氏
(中世城郭研究会)

日時：2018年4月22日(日)
13時30分～15時45分

場所：京北ホール

会費：300円(資料代)

さる2018年4月22日、京北ホールにおいて、当会は「縄張り図から見る中世城郭の実像と松ヶ崎城」と題した講演会を行いました。縄張り図とは、ケバ線を用いて、地表面を掘りこんだ空堀や地表面に盛り上がった土塁など、城郭の凹凸ある様子を平面図に表現したものです。そういう縄張り図を多数示して、横浜市の中世城郭と柏周辺の中世城郭を比較したり、城跡によくある櫓台の本当の姿、低い土塁の使い方、中世城郭に建物をどう建てたかなど、興味深いお話を分かりやすく説明して頂きました。



<講師の田嶋貴久美氏>

横浜市は神奈川県で最大の市ですが、小机城、茅ヶ崎城などの中世城郭が残ります。なぜか横浜市でも相模国の領域より、武蔵国の方が、それも鶴見川流域に城跡が多く残るとのこと。

一方、柏市周辺にも様々な中世城郭がありました。遺構としては、柏周辺の方がよく残存しているそうです。松戸市では根木内城に小金城、流山市は名都仮城、前ヶ崎城、柏市では松ヶ崎城、増尾城、箕輪城、我孫子市は松ヶ崎城とも近い根戸城など、様々な城跡があります。

台、特に飛び出す櫓台を多用する、ということだそうです。

なぜ、そのような城が築かれたのか、考えてみると面白いと思います。

なお、講演会の後、ピアノ弾き語りの早紀さんをお招きし、懇親会を行いました。

荒城の月、花、早春賦といった懐かしい日本の叙情歌をきれいに歌い上げてくれました。そして松ヶ崎城も。



<会場である京北ホールには、多数の来場者が。ほとんど満員の状況でした>

田嶋氏によれば、柏周辺の城の特徴は、1. 上に乗って使うタイプの、しっかりした土塁を築く、2. 顕著な低土塁の使用は見られない、3. 虎口への横矢の意識が強い、4. 根木内、箕輪、恐らく小金城にも馬出が存在、5. 櫓



<懇親会で>

情報広場

●柏市郷土資料展示室

現在開催中 ～ 6月24日
(日曜日)まで

千葉県北西部地区文化財
巡回展「歩いて、掘って、調
べて、わかる まちづくりの
ヒストリア」を開催

縄文時代～現代にかけて
の遺跡や出土品から、千葉県
北西部地区に生きた人々の
まちづくりや暮らしの様子
を紹介します。

●松戸市立博物館

◆市制施行75周年・開館25
周年記念館蔵資料展「まつど
の江戸時代—古文書・絵画・
模型からさぐる—」

- ・期間：6月24日(日曜)まで
- ・内容：江戸時代、いまの松戸市域には50を超える村や町があり、多くの歴史資料が残されました。旧家で守られてきた古文書、御鹿狩の絵画、村の道や耕地を描いた絵図、浮世絵やかかわら版などの印刷物、資料を元に再現された模型、拓本などを展示し、まつどの江戸時代を探ります。
- ・会場：企画展示室
- ・観覧料：無料

・担当学芸員による展示解説会

- ・日程：4月29日(日曜・祝日)、5月5日(土曜・祝日)、5月26日(土曜)、6月9日(土曜)
- ・時間：各日14時、企画展示室入口集合(時間約30分)

費用：無料

◆学芸員講演会(1)「まつどの江戸時代 歴史資料のいろいろ」(当館友の会共催)

- ・日時：5月27日(日曜) 13時から15時
- ・内容：館蔵資料展をより楽しむための、歴史資料の見方について講演します。

- ・会場：講堂
- ・講師：富澤達三(館蔵資料展担当学芸員)
- ・定員：先着80名(申込不要)
- ・費用：無料

◆歴史を語る(1)「近世・松戸河岸と江戸—人と物の交流—」

- ・日時：6月3日(日曜)13時から15時
- ・内容：将軍様から長屋のご隠居まで、江戸人の生活を支えた松戸河岸の歴史を振り返ります。

- ・会場：講堂
- ・講師：和泉清司氏(高崎経済大学名誉教授)
- ・対象：一般 定員：80名(抽選) 費用：無料
- ・申込：往復ハガキ(1人1枚)に住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記して、「6月3日歴史を語る(1)」係へ。5月15日(火曜)【必着】切。

●本佐倉城跡の鯉のぼり

- ・開催期間
2018年4月19日(木)～5月13日(日)
- ・アクセス (電車)京成大佐倉駅から徒歩10分
- ・問い合わせ 佐倉市教育委員会文化課 (TEL: 043-484-6192)

カシニワ・フェスタ 2018

開催!～例年通り当会も参加

今年のカシニワ・フェスタは、開催日：2018年5月16日(水)～5月20日(日)
会場：柏市内76カ所



カシニワ・フェスタの一環で、当会は5月20日(日)に松ヶ崎城跡見学会を行ないます。植樹里親の皆様、当会会員・関係者だけでなく、関心のある方もお誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

・場所：松ヶ崎城跡 台地中段に集合 → カシニワの旗を立てます(柏市松ヶ崎字腰巻457-1 *北柏駅よりバスで竹ノ台バス停南徒歩3分)

・日程：2018年5月20日(日) 13時半～15時頃(予定)

・その他：必ず帽子を被り、足元のしっかりした靴や服装でおいでください(飲み物は各自持参願います)。小雨決行、荒天中止。また駐車スペースが限られていますので、なるべくバスなどでお越しください。

・主催：手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会

・共催：カシニワ・フェスタ2018実行委員会・一般財団法人柏市みどりの基金・柏市



カシニワ制度マスコット
キャラクター「ニワやん」

歴楽講座より (2017年10月「江戸開府前後の謎と東葛」レジュメを抜粋し改訂)

1. 江戸幕府の体制と所領の考え方

・徳川家康は、関ヶ原合戦後の慶長8年(1603)2月征夷大将軍に就任

江戸入部後、徳川家康は道三堀を開削し、平川から隅田川までの水路を設置、局沢川の水をせきとめて、千鳥ヶ淵を作り飲料水を確保するなど、治水を実施、江戸開府後も上水を整備

江戸城を戦国期以来の本丸を石垣造りとし、本丸下の白鳥濠の一部を埋め立て、二の丸を整備、西ノ丸、北ノ丸など大幅に拡張(いわゆる天下普請で藤堂高虎の設計のもと、西国大名の築城を請け負わせた)

(略)

【江戸幕府の体制】

・将軍を頂点とする中央政庁である幕府と、将軍と主従関係を結んだ大名が統治する藩で構成されていた
(略)

【所領の考え方】

・将軍直轄領は「天領」とし、郡代や代官をおき、年貢収納、農民の取締を実施
・大名領や旗本領も、城や陣屋を政庁として同様に実施

【松戸・柏では】

・小金城を居城とした高城氏は、千葉氏重臣で独自の勢力をもった原氏に従い、後に独立、後北条氏の他国衆として下総地方西部に勢力を拡大
・小金領といわれたのは、現在の野田市南部から流山、柏、我孫子、松戸、市川、

鎌ヶ谷、船橋の各市域であり、その他にも高城氏は印旛郡の一部、二郷半(二合半)領(埼玉県三郷市)、葛西領の一部や神奈川県海老名市などに領地あり(「古下野守胤忠知行高附帳」など古文書による)

・天正18年(1590)小田原合戦の際、豊臣秀吉の臣浅野長吉に攻められ、小金城は落城、戦国大名高城氏の小金支配は幕を閉じ、高城氏は任官運動の末高城胤則の子胤重が旗本となる
(高城氏の多くの家臣は帰農)

・小金領は、その後文禄2年(1593年)まで、徳川家康の五男である武田信吉の所領となる(石高:3万石)
・武田信吉を守るように、守谷には菅沼定政(1万石)、山崎(現野田市)に岡部長盛(1万3千石)が配置されたが、何れも江戸初期に転封となった

【船橋では】

・船橋の「御殿地」には、慶長18年(1613)に徳川家康、秀忠父子の鷹狩用の船橋御殿が建てられた
・東金御成街道は、船橋を起点とし東金まで続く街道で、街道沿いに鷹狩のための宿泊所という名目で御殿が建てられたが、物資輸送のほか軍用道路の意味があった

2. 小金城と高城氏遺臣のその後

・小金城主高城氏は、胤辰の代で戦国大名化
・第2次国府台合戦後には、

葛西・亀井戸・牛島・堀切・小曾根・新堀・飯島・行徳・舟橋と一時領土は東葛だけでなく、現在の東京都東部にも及び、神奈川県にも所領あり(一説には11万石余りの所領というが誇張の模様)

Cf. 豊臣秀吉の関東攻めの際の調査結果:千葉介が三千騎、原大炊介が二千五百騎、ついで高木(城)七百騎

→ 千葉氏が15万石~20万石、原が10万石とされ、高城は3~4万石か

・高城氏は小田原合戦後、他家預かり、徳川秀忠時代に旗本へ

・小田原合戦で、胤辰の子で当主の高城胤則は、小金城を家老安蒜備前守や吉野縫殿助、平川若狭守らに任せて、小田原城に籠城し湯本口を固めた

・その間、小金城は浅野長吉(のちに長政と改名)の軍勢に攻められ落城

・小田原で豊臣方に降伏した胤則は、浅野長吉の仲介で蒲生氏郷に預けられることとなり、信濃国に蟄居、その後京都伏見にて豊臣秀吉謁見しようとしたが病となり、豊臣家に仕官できず。その後、胤則は加々爪氏を頼って徳川家への仕官を望み家康もこれを認めたものの、再び病のために謁見できず、慶長8年(1603)病死(享年33歳)

・胤則の子の胤次(のちの重胤、胤重)はわずか三歳で、親戚の佐久間安次預かりと

なり、元和2年(1616)、佐久間安次の推挙で將軍秀忠に拝謁を許され、旗本として家名を存続させた(石高200石)

・高城氏遺臣は江戸川周辺の開拓も

・二百石の旗本となった高城氏(後に加増され七百石)は、帰農した旧家臣たちに官途状などを発給、形ばかりだが主従関係を保つ

Cf. 寛永元年(1624)、高城重胤、旧臣吉田四郎左衛門に対して官途状を発給

寛永5年(1628)、“旧臣成嶋大膳に対して受領状を発給

慶安2年(1650)、“旧臣吉野庄五郎に対して「縫殿介」の官途状を発給

・高城氏旧臣のなかには、現在の江戸川流域の開拓を行う者も

・花輪城主平本主膳正定虎の子、平本定久は、関東郡代伊奈忠治の命により、現在の埼玉県の三郷辺りの新田開発を行った

・現在の吉川市三輪野江にある蓮華山延命院定勝寺は、平本定久の子で、やはり当地の開拓と堂宇建立に尽力した平本定勝の名を寺名としている

* 定勝寺は、永正年間(1504~1521)花輪城に近い下総国葛飾郡桐谷郷貝塚村に建立された、蓮華山観音寺が始まりで、江戸初期の利根川支流流路付替のため、当地に移されたという

【東葛の雄城 小金城】

・松戸市大谷口の標高約20

mの台地全体をしめる

・東西850m、南北650mに及ぶ城域、周辺に家臣の屋敷

・戦国期における高城氏の居城であり、小金領と呼ばれた高城氏の支配領域の政治的・軍事的中心であった。

・台地全体に築き、12郭もある複雑な縄張

・原氏が生実を追われた永正14年(1517)頃には機能していたらしい

【小金に残る武田信吉生母の墓】



<秋山夫人の墓(本土寺)>

・現在本土寺に武田信吉の生母、秋山夫人の墓がある
・秋山夫人は於都摩といい、甲斐の武田家家臣の秋山越前守虎康の娘で、穴山信君(梅雪)の養女となり、徳川家康の側室となった

・於都摩は、家康の五男信吉を産んだ後、信吉が天正18年(1590)にわずか8歳で小金3万石に封じられた翌年の天正19年(1591)10月、24歳の若さで、小金にて病没

【「佐倉」に移封された武田信吉】

・武田信吉は生来体が弱く、小金城には入っていない模様(伝承もない)

・一方、「佐倉」(現在の酒々

井)に移封されてからは、現地に在住

3. 東葛にあった御殿、陣屋

【徳川家康と船橋御殿】

・東金御成街道沿いに徳川家康、秀忠父子の鷹狩のための宿泊所という名目で御殿建設

⇒ 東金街道には信玄の棒道を手本とした軍事目的の要素、御殿も諸大名の監視、情報収集の拠点

【松龍寺と戸定陣屋】

・旗本高木正次ゆかりの松龍寺

・江戸時代はじめの旗本高木筑後守正次は、三方ヶ原の合戦で徳川家康の危急を救った高木広正の子、いつから松戸を所領としたか不明ながら、文禄2年(1593)

下総国葛飾郡に采地あり、さらに慶長18年(1613)下総国葛飾郡に620石を加増(他の領地をあわせ高木正次の石高は3,300石)→松龍寺も同年開創か
・高木筑後守正次は松戸の松龍寺の中興開基といわれる

・松龍寺は、照誉頓公上人を開山とした浄土宗の寺

・松戸神社とその南側に陣屋があった ↓

① 松戸神社の西側に「陣屋口」の地名あり

② 松戸神社境内の場所に、「御領所陣屋」(幕府直轄領の陣屋)

③ 境内南側に「私領所陣屋」(旗本領の陣屋)があった模様

* 私領所陣屋は旗本高木氏のもの

・江戸前期の松戸は、江戸川沿いに水戸街道が走り、街道脇に松龍寺、その背景に城山（松戸城跡）、御嶽権現と記されている場所に御領所陣屋があった



<船戸陣屋跡付近の不動堂>

【柏にあった大名陣屋、本多正重の船戸陣屋】

・本多正重は兄正信が政務に力を発揮したのに対し、歴戦の武人であり、慶長19年（1614）からの大坂の陣では徳川秀忠に属して参謀として活躍、元和2年（1616）7月に下総国相馬郡舟戸に1万石を与えられて大名となる
・船戸陣屋は柏市船戸にあったが、現在遺構は残っていない（陣屋近くに不動堂があり、代官の墓が少し離れた善哉庵にあるのみ）

【本多氏子孫の藤心陣屋】

・本多正重の子正氏は豊臣秀次に仕え殉死したため、孫の正貴が正重の跡を継いだ、2000石減ぜられ、大名から旗本に
・元禄元年（1688）に本多正永の代に再度1万石の大名になり、さらに5000石加増され、元禄16年（1703）船戸から上野沼田へ移封
・宝永元年（1704）本多正永は老中となり、1万石を加

増され、最終的には4万石（後に駿河田中藩へ）
・駿河に本拠が移るも下総の領地も継続支配となり、藤心陣屋が置かれた

参考文献

- ・『佐倉市史』 佐倉市史編纂委員会（1979）
- ・『酒々井町史』 酒々井町（1988）
- ・『松戸の歴史案内』 松下邦夫（1982）郷土史出版
- ・『松戸市史 中巻 近世編』 松戸市（1978）
- ・『柏市史 近世編』 柏市（1995）

ほか



お知らせ

<原稿募集>

会報への皆さんの投稿をお待ちしています。遺跡などの研究ノート、講演会の受講記録、紀行文や写真、イラストでも、地域の歴史、自然に関わることであれば、何でも結構です。Eメールの場合は info@matsugasaki.jo.net まで。紙の原稿を役員に託されても結構です。

<会誌「水辺の城」第2号発刊>

4月29日に会誌「水辺の城」第2号を発刊いたしました。「車ノ前五輪塔と柏市大井地区の中世世界」講演録、論文、紀行文など110ページ（正価千円、会のイベントでは特価で）。

<カシニワ・フェスタの準備>

5月13日（日）10時より、20日のイベント（松ヶ崎城跡見学会）に向けて、旗立て、仮の樹名板設置を行います。お手伝い頂ける方は、松ヶ崎城跡までお願いします。

<5月の歴史講座>

5月27日（日）10時より、アミューゼ柏会議室Bで行います（開始時間にご注意を）。

<会費納入のお願い>

既に納入された方も結構おられますが、会費納入がまだの方は、できるだけ5月中に納入をお願いします。下記口座へお振込みでも結構です。よろしくお願いします。

手賀沼が海だったころ

手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会会報 第38号 2018.5.5

編集・発行人：森 伸之

年会費2千円 振込先：千葉銀行 柏支店（普通） 口座番号3461475